

防除法 病原菌は主として塊莖中に潜在して越冬し、翌年發芽後に發病を見ることが多いから、苗には塊莖の被害しないものを用いるようにする。これには健全な苗に生じた塊莖を用いることが第一の要件である。被害苗の組織内には必ず厚膜胞子を生じ、土壤中に混入して永く生存するから、被害苗を生じた圃場には、苗の植付をしないのがよい。被害苗もその病勢の進行が緩慢であるから、苗の先端部に生じた芽を挿芽するとき、概ね健全な苗を得ることが出来る。

Résumé

A sort of *Fusarium* wilt of *Stachys Sieboldii* Miquel (Lamiaceae) was found by Mr. Ichiro Sasaki at the Tsumura Medicinal Botanic Garden in the spring of 1951. This fungus seems to belong to a strain of *Fusarium oxysporum* Schl. and through inoculation tests, it became clear that this fungus certainly has pathogenity to the seedlings of *Stachys Sieboldii* but it does not affect the seedlings of the water melon (*Citrullus vulgaris* Schrad.), the cucumber (*Cucumis sativus* Linn.) and the sponge-cucumber (*Luffa cylindrica* Roem.). So far as the present study shows, this disease of *Stachys* would do no harm on other economically important cucurbits as mentioned above.

〇ムサシアブミの性と球莖の大きさ (日野 巖) Iwao HINO: Sex in *Arisaema ringens* Schott. with special reference to the size of corms.

ムサシアブミは雌雄いづれも染色體數は同じであるが、その榮養の如何によつて或は雌となり或は雄となる。従つて、球莖の大きさは雌雄性の發現に大きい關係がある。

筆者は昭和2年から數年間つづけて野外觀察と栽培とによつてこの關係を研究していたが、その詳細は他日にゆづり、ここでは球莖重と雌雄性との關係についてのみ記しておく。材料は宮崎市下方産のムサシアブミである。

球莖重が3-15g. の小さい個體では榮養體だけが見られ花は生じない。雄本は8-53g. の球莖であり、雌本は41-192g. の球莖を有する。この三者の間にそれぞれ明確な境界線を引くことはできないが、大體の傾向はよくわかる。

ところが、往々にして雌花中に雄花を、雄花中に雌花を混じている花序が見られるが、多くの場合球莖が病蟲害その他の被害を受けているから、ホルモン障害があるのではあるまいかと思う。

なお、ムサシアブミの雌雄中の3性は筆者の考察した硫酸銅反應法で明瞭に區別し得られるから、それぞれの性發現時にはそれぞれ特有の化學的狀態にあるものかと思われる。